

食に関する指導の目標を取り入れた総合的な学習の 時間の単元プラン作成を通して、 教職課程（栄養教諭）の学びを深める指導の在り方

伊 藤 京 子

A Study on the way of teaching to deepen learning in the teacher course
-Through the creation of unit plans of the period for integrated studies that
incorporate the objective of instruction related to meals-

Kyoko ITO

【要 旨】

本研究は、別府大学短期大学部食物栄養科の教職課程（栄養教諭）履修者が、高校生の昼食について考えることを題材とした中学校第3学年を対象とした「総合的な学習の時間」の単元プランを作成する活動を通して、教職課程コアカリキュラムに定めている内容の修得促進や新学習指導要領等で求められている「主体的・対話的で深い学び」「教科横断的な指導」等についての学びを深める取組である。単元プランの計画を作り、そのプランを評価し改善するといった活動を行うことで、総合的な学習の時間の指導法や学校栄養指導論、栄養教育実習指導等の教職科目への理解促進が図られたとともに、これからの学校現場で求められている授業実践力に繋がることが示唆された。

【キーワード】

栄養教諭 総合的な学習の時間 主体的・対話的で深い学び

1. はじめに

(1) 現状

食育基本法が平成17年に施行され、学校や保育所等における食育の推進や役割が示された。また平成16年の学校教育法の一部改正により栄養教諭制度ができ、平成17年4月から栄養に関する専門性と教育に関する資質を持ち併せる栄

養教諭の配置が始まった。（大分県においては平成19年度から配置開始）また、平成20年に学校給食法的大幅な改正がなされ学校給食の目的に「学校における食育の推進」が明記された。このように法律が整備され食育の推進体制ができた。

本県においては、配置開始の平成19年度は7名であった栄養教諭の数が令和2年度には52名（文部科学省栄養教諭の配置状況¹⁾）となり、

その専門性を生かした食育の取組が実施されている。

具体例として2つ上げてみる。1つ目は、平成26年度から28年度に大分県教育委員会が実施した「栄養教諭を活用した食育推進事業」の推進地域の取組報告²⁾から各地域や学校で着実に食育推進が図られていることが分かる。2つ目は平成29年度同じく県教委が実施した「スクールヘルスアップ事業」において、栄養教諭・養護教諭、体育専科教員等が連携して児童生徒の健康課題解決への取組がなされ、事業報告書³⁾ですばらしい成果を上げている。

このようなことから学校現場は食育の中核的役割を担い学校・家庭・地域と連携をして計画的に継続して食に関する指導を実践することのできる資質を備えた栄養教諭を求めているといえるであろう。本学食物栄養科では今現在令和2年度入学生は10名、令和3年度入学生は6名の者が栄養教諭免許取得を目指して学習をしているが、栄養教諭養成機関としてその職責を果たせることのできる栄養教諭の力を養うための取組を検討していく。

(2) 平成31年度からの教職課程のカリキュラム改正について

教職課程のカリキュラム改正の中で、栄養教諭教職課程の科目では「チーム学校への対応」「学校と地域との連携及び学校安全への対応」「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」「カリキュラムマネジメント」「総合的な学習の時間」が追加されたことが主な変更点である。(教育職員免許法・同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて⁴⁾)このコアカリキュラムに沿って、これからの教育を担うにふさわしい資質の高い栄養教諭の育成が求められているといえよう。

2. 食に関する指導の手引—第二次改訂版—について

平成19年3月に文部科学省から「食に関する指導の手引」⁵⁾が発行された。当時筆者はこの

手引きをもとに食に関する全体計画作成等、学校における食に関する指導の在り方を模索し、所属校や市教委の担当者とともに立案をして指導を実施してきたが、全国的に見てもそうだったであろうと考えられる。平成20年の学習指導要領の改訂を踏まえこの手引は平成22年に第一次改訂版⁶⁾が出された。そして平成29年の学習指導要領の改訂を踏まえ平成31年に第二次改訂版⁷⁾が出された。

この手引中に新学習指導要領における食育の位置づけや指導について次のように書かれている。

「平成20年に告示された小学校、中学校の学習指導要領総則及び平成21年に告示された高等学校、特別支援学校の学習指導要領総則に「学校における食育の推進」が初めて位置付けられました。平成29年に告示された小学校、中学校、特別支援学校小・中学部の学習指導要領総則に、「学校における食育の推進」がこれまで以上に明確に位置付けられ、小学校、中学校では、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間等が加えられました。(第1章第4節の2から一部抜粋)」

また、第4章第1節1(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の箇所には、「食育の視点」で例示された三つの柱に沿った資質・能力を踏まえ「何ができるようになるか」を意識した指導が求められます。育成を目指す資質・能力を確実に育成していくため、関連する教科等の特性を踏まえた見方・考え方を適切に働かせているかなど、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めていくことが重要です。と書かれており、これからの教科等における食に関する指導はその教科等の目標や特徴や内容を把握し、食育の目標・視点〈図1・2〉のどこを目指すか明確にする必要がある。

(知識・技能)
食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けるようにする。
(思考力・判断力・表現力等)
食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。
(学びに向かう力・人間性等)
主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。

〈図1〉食に関する指導の目標
(食に関する指導の手引き 第二次改訂版より)

◇ 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。【食事の重要性】
◇ 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。【心身の健康】
◇ 正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。【食品を選択する能力】
◇ 食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。【感謝の心】
◇ 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。【社会性】
◇ 各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。【食文化】

〈図2〉食育の視点
(食に関する指導の手引き 第二次改訂版より)

3. 総合的な学習の時間と食に関する指導及び栄養教諭について

(1) 小・中学校学習指導要領⁹⁾から

新井⁹⁾らは、2017年小・中学校学習指導要領における「総合的な学習の時間」と食に関する指導の要点を2つあげている。

○1点目 (一部抜粋)

1点目は、総則の第1章第1の2の(3)において、学校における食育を推進する科目等が、2008年度改訂と同様に示されたが、2017年改訂で初めて「総合的な学習の時間」が明記されたことである。この背景として、直接的には2017年改訂の「学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編」の第1章2(2)改訂の要点において、「探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるもの…」とされ、食育がこの取り組みにふさわしいと考えられたことによる。

○2点目 (一部抜粋)

2点目は、2017年改訂の「学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編」において、「総合的な学習の時間」の実践を支える運営体制の重

要性を示す中で、校内分担例として、「栄養教諭：食育に関わること」が例示されたことである。

この2点目の「栄養教諭」については、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編」¹⁰⁾において具体的に記載されている箇所を他にも取り出してみる。

・第4章第2節(6)から一部抜粋：全教師が一体となって組織的に指導に当たることが求められる。このことは横断的・総合的な学習を行うことなどのこの時間の目標からも明らかである。そのためには同学年や異学年の教師が協働で計画や指導に当たるとはもちろん、校長、副校長、教頭、養護教諭、栄養教諭、講師などもこの時間に関わる体制を整え、全教職員がこの時間の学習活動の充実に向けて協力するなど、学校全体として取り組むことが不可欠である。

・第9章第2節2の(1)から一部抜粋：校内で養護教諭や栄養教諭、司書教諭等も含め、教師の特性や教科等の専門性に基づき、生徒の質問や相談に応じたり直接指導したりする仕組みを整えておくことが欠かせない。

このように「栄養教諭」の関わり方が示されている。

(2) 現状

令和2年12月に大分県内の栄養教諭を対象に、どの教科等で授業に参画しているかアンケートを実施した。(回答率57.7% 30名)結果は学級活動96.6%、家庭科(技術家庭科)82.8%、体育科(保健体育科)69.0%、生活科41.4%、社会科24.1%、総合的な学習の時間24.1%、理科3.4%であった。総合的な学習の時間での参画は学級活動等と比較すると少ない。取り組んだ内容では「米作り」「お弁当の日」などがあげられていた。しかしこれまでに述べたように、新学習指導要領、食に関する指導の手引の内容に沿って今後、参画する機会が増えると期待している。

児童生徒側の受け止めとして参考になると考え、令和3年度入学の本学食物栄養科学生42名を対象に小中学校において食に関する指導を受けたことがあるかの調査を実施した。小学校では71.4%の者が中学校では61.9%の者が「教科等における授業時間、給食時間または集会活動時に受けた」と回答した。

どの教科等で栄養教諭から指導を受けたかという質問に対しては小中ともに1位家庭科（技術家庭科）、2位総合的な学習の時間、3位学級活動であった。

4. 目的と方法

(1) 設定

栄養教諭養成機関として、求められている資質能力を持った栄養教諭を育成していく必要があるが、まず「主体的・対話的な深い学び」と「教科横断的な指導」について学生の理解を深める取組を行うことにした。その方法としてこれまで述べてきたことから、食に関する内容を取り入れた総合的な学習の時間の単元プランの作成を行うことにした。食に関する指導の目標に結びつく1つの探究課題を設定し、単元プラン作成を考える活動を行えば、そのプロセスを通じて理解が深まるであろうと考えたからである。対象は令和2年度本学食物栄養科入学生で教職課程（栄養教諭）履修者とした。

(2) 総合的な学習の時間に対する学生の意識

令和2年12月に本学食物栄養科の令和元年度入学生と2年度入学生の中で栄養教諭免許取得を目指している者を対象（18名）に、自分たちが小中高校時代に経験した総合的な学習の時間について調査した結果、小学校のときの経験を回答できたのは約3割で、内容は米作り、ボランティア活動、町探検であった。中学校のときの経験を回答できたのも約3割で内容は職場体験、性教育や食育であった。記憶に新しいであろう高校になると4割と増え、内容も進路についての調べ学習、インターシップ保育、地元大学生との学び、地元の海を守ろうプロジェクト

ト、新聞の有効な活用方法といったより具体的な内容を記載していた。学校によっては独自の授業名で実施していることも予想されるので「総合的な学習の時間」と限定して聞いたことで数値が低かったのかもしれない。

同じく「総合的な学習の時間に食を取り上げるとどんな効果が期待できるか」の質問に対しては、食に興味関心を持ってもらえる、朝食摂取率が上がる、栄養バランスの大切さが分かる、食に関することが身につく、食品を選択する能力がつく、給食の残食率が減少する、食は多くの児童生徒が関心を持つため授業に集中するといった回答があり、総合的な学習の時間と食に関する指導を結び付けるイメージは描けていると思われた。

(3) 指導計画の作成にあたって

総合的な学習の時間にはまず全体計画が必要なので、全体計画は、大分県教育委員会の「【中学校】総合的な学習の時間の全体計画例（令和2年11月26日公開）」¹¹⁾を参考にし、単元計画は「小学校単元プラン例（高学年）（令和元年9月19日更新）」¹²⁾を元に表を作りこれからの作業についてイメージを持たせた。探究課題は、食に関する指導の手引—第二次改訂版—第4章の7総合的な学習の時間（3）イ【中学校】①の健康を考えた食生活と高校生の昼食の在り方（食、健康）：「高校生に向けての昼食（高飯）やサラリーマンの昼食（サラメシ）を考えよう」を参考にすることにした。（図3）

(4) 倫理的配慮

総合的な学習の時間の指導法と学校栄養指導論（食に関する指導分野）におけるアセスメントシート記入時に本取組の趣旨、個人情報保護、成績評価等には不利益が生じないことを口頭で説明した。

(5) 単元プラン作成の進め方

1) 事前自己評価

総合的な学習の時間の指導法と学校栄養指導論（食に関する指導分野）におけるアセスメン

トシート〈表1〉を作成し学生に自己評価をしてもらった。結果から、これまでの授業を通し

【中学校】

課題(例示)	探究課題	主な学習活動(該当学年・総時数を含む)	探究課題を解決するための問い	指導の留意点等
①現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題(食、健康)	健康を考えた食生活と高校生の昼食の在り方(食、健康)	「高校生に向けての昼飯(高飯)やサラリーマンの昼飯(ナラメシ)を考えよう」 中学校第3学年 30時間 来年度になれば、多くの生徒は高校に進学したり、就職したりと、弁当持参の生活になることが予想されます。欠食したり偏食したりすることがないように進学・就職した時の昼飯の在り方について、学校給食と比較しながら考えます。そして、自分たちでも作ることができる栄養バランスのとれた一食分のおすすめメニューを考えてレシピ集にまとめ、次年度実際に弁当を作って持参しようとするなどの態度を育みます。	・欠食や偏食は体にどのような影響を及ぼすか。 ・自分たちの食習慣と健康とはどのような関わりがあるのか。 ・体によいおすすめメニューを考えるために、どのように調べるか。 ・より健康で安全な食生活にするためにどのような興味・関心に応じて選択できるようにすることも考えられます。	給食がない学校は、生徒の普段の昼食で考えます。また、おすすめメニューを考える際は、一週間のメニューにしたり、地元食材を入れて考えたり、生徒の興味・関心に応じて選択できるようにすることも考えられます。

〈図3〉探究課題(食に関する指導の手引き 第二次改訂版より)

〈表1〉総合的な学習の時間の指導法と学校栄養指導論(食に関する指導分野)におけるアセスメントシート(自己評価)(数字は%)

	項目	とてもできる%	できる%	ややできる%	あまりできない%	できない%
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の3つの目標が分かる。			90	10	
	探究的な学習、横断的・総合的な学習について説明できる。		10	80	10	
	よりよく課題を解決する方法をいくつかあげることができる。			100		
	総合的な学習の時間の評価の観点を理解している。		10	80	10	
	総合的な学習の時間の評価方法を理解している。		10	80	10	
	総合的な学習の時間の年間指導計画作成にあたって、配慮する点を理解している。		10	80	10	
	課題設定、単元計画にあたって配慮する事項を理解している。			90	10	
学校栄養指導論における食に関する指導	主体的・対話的な学びについて理解している。		20	70	10	
	主な学習活動や単元の課題事例を作成することができる。		20	80		
	食に関する指導の3つの目標が分かる。		30	60		10
	食育の視点6つが説明できる。	10	30	50	10	
	給食時間に行われる食に関する指導について理解している。		30	70		
	教科等における食に関する指導の評価方法を理解している。		10	80	10	
	食育の視点に関しての評価方法を理解している。		10	70	20	
	食に関する指導の全体計画・年間計画の必要性を理解している。		10	90		
	食に関する指導の年間計画の内容を理解している。		10	90		
食に関する指導の全体計画・年間計画作成にあたっての栄養教諭の役割を理解している。		10	90			
学級活動における食に関する指導で、食育の視点を取り入れた指導案及び教材作成ができる。		10	80		10	
学級活動以外の教科等における食に関する指導で、食育の視点を取り入れた指導案及び教材作成ができる。		10	70	20		

て両分野に関して概ね理解できていると捉えている学生が多いことが分かった。また、総合的な学習の時間の指導法での評価が高い者が食に関する指導でも評価が高かった。総合的な学習の時間で「主な学習活動や単元の課題事例を作成することができる。」では「できる」「ややできる」を合わせると100%、食に関する指導で「学級活動以外の教科等における食に関する指導で、食育の視点を取り入れた指導案及び教材作成ができる。」では80%であり本取組が可能であると判断した。

2) 単元作成時のウォーミングアップ

まず単元作成に当たり、探究課題への関心を高めるため「高飯プロジェクト」と名付けた。そして総合的な学習の時間の単元作成のイメージがつかみやすいように、まず学生に中学校3年生の立場になってもらい、高校生になっ

良いところ

<p>費用がかからない 栄養バランスがいい 添加物が少ない 塩分が少ない 作ってもらえば家族の愛を感じる 自分で作れば満足感を感じる 好きな物が食べられる 自分で好きな物を組み合わせられる お弁当箱を開けるときの楽しみがある 食べられるだけの量をつめられる 買いに行く時間と手間がかからない</p>	<p>手間と時間がかからない 保存がきく 好きな物が食べられる カロリー等の表示がある その日の気分で選べる おいしい</p>
<p>おかずがマンネリ化 お金がかかる 冷たい 添加物を多く摂取してしまう 好きな物ばかりになる 栄養が偏る 移動時に崩れるたり汁がもれる恐れがある 荷物が増える 自分の好きなものが入っているとは限らない 朝忙しい 手間と時間がかかる 帰宅後容器を洗わないといけない 衛生管理の徹底ができない 夏場学校での保管が心配 食中毒の危険がある</p>	<p>添加物が多い 体によくない お金がかかる 買いすぎる 温かいものを買っても冷める 栄養が偏っている 買いに寄る時間がかかる</p>

問題点

〈図4〉お弁当のメリット・デメリット等のまとめ

たらどんな昼食が想定されるか複数案を出させ、その中から、「家から持参するお弁当」「コンビニ等で買う昼食」の2つに絞りそれぞれのメリット・デメリットを話し合った。

【結果と考察】

中学校3年生の立場を想定したものの、栄養学等を学んでいる者として、多方面から高校生の昼食について考えることができ、大変活発に意見交換がなされ、〈図4〉のような表を作成することができた。この活動はとても有効であり、この後に行う単元作成の一部分にこの手法を持ってくる学生が多く見られた。

3) 小単元のめあての作成

単元名と単元の目標は先にも述べたように食に関する指導の手引—第二次改訂版—を参考とし、次の通りに決定した。

単元名 「高校生に向けての昼飯高飯プロジェクト」を考えよう

単元目標「来年度になれば多くのものが昼食を各自で準備しなければならなく

なると予想される。そこで学校給食の振り返りと今後の昼食の在り方を考える活動を通して、自分たちにできる昼食の具体案を情報発信しようとする態度を育てる」
 (全30時間)

まず3つの小単元のめあての作成に取り組んだ。全員作成は初めてのことなので戸惑いやどう書いていいのか分からないことが予想された。そこで他者の意見を参考にしながら考え、自分の意見と比較ができるように、全員が共有できるスプレッドシートに書き込む方法をとった。

【結果と考察】

なかなか取り掛かることができない様子が見られたが、最初の3人が書き込みを終えた辺りから、続々と書き込み始めた。そして最終的に10の案ができあがった。(表2に一部紹介)

この方法は、他者の考えを参考にできるので進めやすいが似たような計画が数点見られた。しかし独自性があり興味がある内容のものも見

〈表2〉単元のめあて（案）

高飯プロジェクト みんなの考え（集約） 10の案	
1	【小単元1のめあて】 昼食は給食派 or お弁当派のメリット・デメリットを上げ意見をまとめよう。
	【小単元2のめあて】 作る側の視点になり、実際にお弁当を作ってみよう。
	【小単元3のめあて】 自分たちで整理した考えを発信しよう。
2	【小単元1のめあて】 地域の高校を訪問し高校生の昼食について調査し、高校生のお弁当と学校給食と比較してみよう。
	【小単元2のめあて】 小単元1で勉強したことをもとに、食生活改善推進委員(ヘルスマイト)さんと一緒にMy お弁当を考えてみよう。
	【小単元3のめあて】 ヘルスマイトさんと考えたMy お弁当メニューをみんなと協力してレシビ集を作って家庭や地域の方に配布しよう。

られ、次のステップへの関心度が高まった。

4) 小単元1～3の計画の作成

「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」「振り返り」の計画作成に取り組んだ。作成済の10のめあての中から各自自由に1案を選択し（必ずしも自分の作成したものでなくても良いこととした）各自で既習事項や図書やインターネットで事例を検索し参考にするなどして作成した。「給食との比較」「最終的に高飯についての情報を何らかの形で情報発信する」を共通目標とし、それ以外は自由とした。

総合的な学習の時間についての計画には地域や学校の実態把握をしなければならないので地域は別府大学周辺としたが学校の実態までの設定はしなかった。

計画作成過程は、小単元のめあて作成時のようなオープン形式にはしないで筆者と学生個人とのスプレッドシートにし、期間を2週間と設定し、記入と添削を繰り返しながら進めていった。

【結果と考察】

作成当初はほぼ全員に次のような問題点があった。

- ・冒頭から教師側が課題を提示してしまい、生徒から疑問が生まれにくい。
- ・情報収集の範囲が校内のみで狭い。
- ・他人ごとのようになっていて生徒が主体的に活動する場がない。
- ・地域の人材や物が活用されていない。
- ・目的にあったまとめ方ができていない。
- ・小単元1から3までの関連性が見えない。

学生が記入したシートに筆者がアドバイスを

行い、シート内に質問が書いてあれば回答を記していった。それを見ながら学生が修正をしていく形をとったが同じ時間にシートを閲覧する事もあり、リアルな意見交換もできた。少ない者で4回、多い者で8回程度添削を繰り返しながら作成をした結果10名中7名が完成することができた。

完成できなかった者に聞き取りをしたところ、指導案作成は1つの課題解決を考えればよいが単元計画となると学習内容をどのように広げていけばよいか分からず完成に至らなかったとの回答を得た。

机上の計画であったこと、学校が実在しないこと、そして全員が初めて行った作業であったため最初は戸惑いがあったが、個人指導のやり取りで少しずつ進みだし、単元の体裁を整えていくことができた。

5) 単元計画の見直し

総合的な学習の時間の重要なポイントは生徒自身の学びの内容と質である。そこで自分たちの立てた計画に沿って授業を実施したと仮定した場合、生徒が主体的に追求できるか、探究的な学習ができるかどうか学生が評価を行った。

学生に中学校3年生の立場になったと想定させて〈表3〉の項目に沿って2～3人のグループになり2案ずつ検討して5段階で評価をした。

【結果と考察】

評価が高かった項目は「自分の意見と他者の意見を比較しながら課題を見つけることができますか」「クラスの人々と協力しあって情報収集ができる内容ですか」「自分の身近な人々

や地域を活用できる内容ですか」「学校・家庭・地域と幅広い人々と繋がることのできる活動ですか」であり、評価が低かった項目は「次の単元に繋げることのできる振り返りとなっていますか」「さらに発展させていこうという見通しが立てられそうですか」であった。

評価の低い項目は学生にとっては聞きなれない言葉であり質問内容その物が難しく、採点基準が分からなかったことも原因の1つだと思われる。

初めて自分たちで作成した単元について自分たちで評価をしたが、具体的に出された意見には、「まとめ方が分かりづらい」「市役所とのパイプ役は誰がしてくれるのか」「市役所に行く必要があるのか」「校内だけでは広がらない」「ネットで調べるだけでは力がつかない」「高校生のお弁当調べはプライバシー保護の観点からいいのか」「インパクトのあるパンフレットは手書きがいいのでは」など中学生目線の内容が多かった。これは実現可能な計画を立てたいという思いが根底にあるようであった。その評価を元に内容をどう修正していったらよいか全員で意見交換をした。対立する意見、折衷案等が出され積極的な意見交換をする中で、単元計画作成にはどのようなことに留意すればよいか、どのような活動を取り入れれば生徒が意欲を持って学びに向かえるのかについてわずかでも理解が深まったと思われる。

この時間は学生同士が運営する型となり、こうした学び合いの場が総合的な学習の時間に求められていると感じたようであった。

6) 各教科との関連性

参考にした全体計画・年間計画は実際にこの計画を行う学校ではないことと、3年間どの教科でどの内容の学びをしていくかの押さえができていないことから他教科との関連性を考える作業は厳しいと考えたが、「関係のありそうな教科をイメージしてみる」という発問にして教科を当てはめていった。方法は全員でスプレッドシートを共有し進めた。自分たちが中学生の頃の記憶から、または中学校での3週間の教育

〈表3〉単元チェック項目

1 課題の設定	これから直面する自分の問題として捉え、意欲を持って取り組むことができますか。
	自分の意見と他者の意見を比較しながら課題を見つけることができますか。
2 情報収集	見通しを持った計画を積極的に立てることができますか。
	目的に応じた情報収集ができますか。
	クラスのみならず協力しあって情報収集ができる内容ですか。
3 整理・分析	考えた収集方法は、興味関心を持って積極的に取り組むことができますか。
	自分の身近な人々や地域を活用できる内容ですか。
4 まとめ・表現	記載されている整理分析内容は具体的にイメージできますか。
	今まで学習してきた内容が活かせる場がありますか。
5 振り返り	課題に対してのまとめになっていますか。
	次の単元に繋げることのできる振り返りとなっていますか。
	今後生活に役立てようとする振り返りができますか。
6 全体を通して	さらに発展させていこうという見通しが立てられそうですか。
	ワクワクする活動ができそうですか。
	クラス全体で一致団結して目的に向かって活動できそうですか。
7 食育の視点	学校・家庭・地域と幅広い人々と繋がることのできる活動ですか。
	食事の重要性
	心身の健康
	食品を選択する能力
	感謝の心
社会性	
食文化	

実習（中学校家庭科履修者）を終えていた者はその経験からシートに記入していった。

【結果と考察】

技術家庭科：【家庭分野】「献立作成」「栄養

素】【技術分野】「個人情報の扱い方」「パソコン技術」保健体育科：【保健分野】「自分たちの健康」「生活習慣病」社会科：「地域を知る」数学科：「グラフ」国語科：「見出し」「紹介文」「要点をまとめる」美術科：「特徴を捉えたイラスト」「色彩」「ポスター」といった案が出された。抽象的な内容であったが、1つ意見が出ると連鎖的に閃く者もあり、「本当にいろいろな教科と結び付けられる」「自分たちが分からないだけでもっとあると思う」といった声が上がった。しかし「こんな簡単なものではないのでは」「正解が分からない」といった厳しい発言もあった。この活動も学生主体で話し合いが行われたが、状況を見ると限界もあり難しいと感じた。

5. この活動を通しての成果と考察

(1) 振り返りシート

学生に具体的に学んだことを記述方式で記入もらった。単元作成の過程で学んだことや全体を通して身についた力についての記述を上げてみる。

- ・総合的な学習の時間は1つのテーマから広げられて多くの教科に関連していることを学んだ。
- ・小単元や課題の設定など順を追ってまとめていく過程を学んだ。
- ・中学校で習う全ての授業を活用して総合的な学習の時間を完成させるのは授業の先生だけでなく地域の方々の協力がとても大切だと思った。
- ・総合的な学習の時間の単元作成や授業計画は、絶対に1人の力ではできないと思った。自分からは思いつかない新たな視点や、さらに良い意見や、自分の矛盾点、考え方の言語化などが1人の力では不可能であるため、他者と協力し合い、意見交換を議論し合うことでさらに良い学習内容となっていくことが分かった。
- ・PDCAサイクルの重要さが分かった。振り返ってどの点がおかしかったか、どの点が分

- かりづらかったかなどを明確化することでさらに良いものとなっていくことを学んだ。
- ・どんな手順で、単元を作成していくのかが分かり、指導案だと1つの授業だけのことだが、年間を通じた計画を考えるために様々なことを調べないといけないことが分かった。
- ・他人の考えを評価する力や自分の意見を発表する力を身につけることができた。
- ・授業を受ける対象者の立場に立った上で考えるという力が身についた。
- ・小単元や課題、情報収集といった細かく分けた作業をどのようにするかなど、考えることができるようになった。
- ・教科横断的に見る視点が見えてきた。

- 単元作成の過程で難しかったことについては、
- ・計画を見直したとき、活動が有効的であるか流れがおかしくなっていないか等を考えること。
- ・個人のプライバシー等の線引きを考えなくてはいけないのだが、どこまで踏み込んでいいのか。
- ・次の過程へ繋がりを持たすのが難しく、ひとつひとつの過程がバラバラになってまとまりが悪くなる。
- ・他の教科との繋がりをどう持たせていくか。などが上げられた。

作成過程全体を通しての感想は

- ・他教科との横断的な学習など、どの内容がどの教科にあたるかなど、とらえ方が難しかった。
- ・授業の全体計画の立て方をもう一度振り返って、理解しなおさないと、実際に立てることになった時に混乱してしまいそうな気がする。
- ・他の人が作成したのを見て、自分が考えたのとは違い、色々な視点から、作成ができることが分かり勉強になった。
- ・教員になったらやりたい内容だと思った。
- ・難しかったが、教員になったらこのような全体計画を立てることが必要になるだと思っ

た。
 ・実際に高飯プロジェクトをすることになったら、指導方法や使用媒体について詳しく考えたいと思った。
 ・もしこの単元が実現すると中学生がどんな感じで授業が進んでいくのか楽しみである。
 といった内容が書かれていた。

(2) アセスメントシートの結果

総合的な学習の時間の指導法と学校栄養指導論(食に関する指導分野)におけるアセスメントシートの第2回目の自己評価の結果は表4の通りである。

「ややできる」から「できる」の%を見てみると、総合的な学習の時間の指導法では「よりよく課題を解決する方法をいくつかあげることができる」「総合的な学習の時間の年間指導計画作成にあたって、配慮する点を理解してい

る」「課題設定、単元作成にあたって配慮する事項を理解している」の項目が40ポイント上昇と高かった。食に関する指導では「食に関する全体計画・年間計画作成にあたっての栄養教諭の役割を理解している」の項目が50ポイント上昇と高かった。

(3) 振り返りシートとアセスメントシートの結果から

学生は積極的に取り組み少しでも総合的な学習の時間について学ぼうと単元作成を進めていたことが分かる。「総合的な学習の時間の指導法及び学校栄養指導論で得た知識」と「栄養教諭実習指導で行った指導案作成と模擬授業」を拠り所として、ワンステップずつ段階を踏んで高飯プロジェクトの単元計画を最終的に2案作成した。(表5 1/2案)

生徒が興味関心を持ち意欲的に動くことがで

(表4) 総合的な学習の時間の指導法と学校栄養指導論(食に関する指導分野)におけるアセスメントシート(自己評価)第2回目(数字は%)

	項目	とてもできる%	できる%	ややできる%	あまりできない%	できない%
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の3つの目標が分かる。		30	70		
	探究的な学習、横断的・総合的な学習について説明できる。		40	60		
	よりよく課題を解決する方法をいくつかあげることができる。		40	60		
	総合的な学習の時間の評価の観点を理解している。		20	80		
	総合的な学習の時間の評価方法を理解している。		30	70		
	総合的な学習の時間の年間指導計画作成にあたって、配慮する点を理解している。		50	50		
	課題設定、単元計画にあたって配慮する事項を理解している。		40	60		
	主体的・対話的な学びについて理解している。		30	60	10	
学校栄養指導論における食に関する指導	主な学習活動や単元の課題事例を作成することができる。		30	70		
	食に関する指導の3つの目標が分かる。		50	40	10	
	食育の視点6つが説明できる。	20	20	60		
	給食時間に行われる食に関する指導について理解している。		40	50	10	
	教科等における食に関する指導の評価方法を理解している。		40	50	10	
	食育の視点に関しての評価方法を理解している。		50	50		
	食に関する指導の全体計画・年間計画の必要性を理解している。		50	50		
	食に関する指導の年間計画の内容を理解している。		50	50		
	食に関する指導の全体計画・年間計画作成にあたっての栄養教諭の役割を理解している。		60	40		
	学級活動における食に関する指導で、食育の視点を取り入れた指導案及び教材作成ができる。		30	70		
学級活動以外の教科等における食に関する指導で、食育の視点を取り入れた指導案及び教材作成ができる。		30	70			

〈表5〉高飯プロジェクト指導計画

中学校第3学年 総合的な学習の時間「高飯プロジェクト」指導計画
 高校生に向けての屋敷「高飯プロジェクト」を考えよう
 来年度になれば多くの高校生を各自で準備しなければならぬと予想される。そこで学校給食の振り返りと今後の屋敷の在り方を考える活動を通して、自分たちでできる屋敷の具体案を情報発信しよう
 全30時間
 単元目標
 時間
 食の視点：心身の健康・食を選択する力・感謝の心

【課題の設定】	【情報収集】	【整理分析】	【まとめ・表現】	【振り返り】
【小単元1のめあて】 学校給食とお弁当は、どちらが人気？メ리트・デメリットと合わせて整理しよう。	【情報収集】 給食とお弁当どちらが好きなのか、アンケートを生徒・先生・家族向けに実施する。項目は給食での工夫、商品開発者へのコメント、商品開発の思い、優先度ごとに回答を記入し、情報量によってお弁当を載せる。収集した図表で両方を比較できるようにまとめる。	【整理分析】 お弁当と給食のメリットとデメリットをまとめる。給食での工夫、商品開発者へのコメント、商品開発の思い、優先度ごとに回答を記入し、情報量によってお弁当を載せる。収集した図表で両方を比較できるようにまとめる。	【まとめ・表現】 班ごとに整理分析した内容を、模造紙にまとめて発表。発表後は、アンケートを単元ごとに使用するので保存しておく。	【振り返り】 ・分りやすい伝えられるような整理分析ができたか。 ・お弁当と給食の良さをそれぞれ知り、自分好みのものになったか。 ・新たに生まれた疑問点は何か。
小単元1 10時間 関連付けられそうな教科	社会（地域を知る）	数学（グラフ） 技術（パソコン）	美術（色彩、レイアウト） 国語（要点をまとめる）	

【課題の設定】	【情報収集】	【整理分析】	【まとめ・表現】	【振り返り】
【小単元2のめあて】 小単元1で整理した内容をもとに、給食、お弁当以外の屋敷について考える。	【情報収集】 高校生（卒業した先輩）に、屋敷は何かを食べたのかアンケートを取り、その理由や好きな理由や好きなメニューについて、情報収集する。（可能な限り、健康増進課のHPなどで地域の健康問題を調べる。可能な限り、役所の担当者から直接話を聞く。）	【整理分析】 アンケート（インタビュ）結果からお弁当を含め想定される屋敷を4項目（栄養、価格、時間、好み）に絞る。それについて点数をつけることと自分たちの意見をもとめる。情報収集した好きな屋敷メニューラッシュボードを作る。病気や問題のある市に多い病気の健康増進課などをまとめる。	【まとめ・表現】 整理分析した内容をポスターにし、見出しを添えて貼る。併せて意図、見出し、ポイント、好きな屋敷メニューやランキング表について意見を求める。	【振り返り】 ・活動目的をきちんと相手と伝え、積極的にインタビュや聞き取り調査ができたか。 ・地域の実態を把握し、問題点を見つけることができたか。 ・高校生の屋敷は今後自分たちが直面する問題であることを切実に実感できたか。
小単元2 10時間 関連付けられそうな教科	社会（地域を知る）	保健体育（健康） 家庭（献立、栄養バランス）	美術（ポスター作り） 国語（意見集約）	

【課題の設定】	【情報収集】	【整理分析】	【まとめ・表現】	【振り返り】
【小単元3のめあて】 自分たちが考えた理想的な屋敷について発信しよう。	【情報収集】 単元2で調べた健康に関する情報は、高校生にアンケートを取り、必要に応じて高校生にアンケートを依頼する。高校生にアンケートを依頼する。高校生にアンケートを依頼する。高校生にアンケートを依頼する。	【整理分析】 単元1・2で情報収集し整理分析した内容でポスターに作成する。ポスターの内容をA4でまとめ高校生に発信し、出来上がり高校生になったときに、自分の目的に合った屋敷を選んで発信する。高校生に発信する内容は広く活用してもらえ、お世話になった方々へのお礼の手紙とともに発信を渡しにいく。	【まとめ・表現】 小単元1・2で情報収集し整理分析した内容でポスターに作成する。ポスターの内容をA4でまとめ高校生に発信し、出来上がり高校生になったときに、自分の目的に合った屋敷を選んで発信する。高校生に発信する内容は広く活用してもらえ、お世話になった方々へのお礼の手紙とともに発信を渡しにいく。	【振り返り】 ・手作りのお弁当とそれ以外の屋敷メニューから、それぞれの目的からお弁当と給食の良さをそれぞれ知り、自分好みのものになったか。 ・高校生の屋敷は今後自分たちが直面する問題であることを切実に実感できたか。
小単元3 10時間 関連付けられそうな教科	家庭（献立作成）	国語（紹介文） 美術（イラスト）	美術（ポスター） 技術（パソコン）	

きる課題設定・情報収集をしくり、次への活動へ繋げる整理分析・まとめをする、その過程は指導者に指示を仰ぎながらも生徒同士で協力し合って各々が達成感を味わえるようなプログラムを作成しなければならないこと、また校内や地域の人材の活用が不可欠であること、既習内容をフルに活かす、さらにはこの活動が今後の自分の力となるような成果内容を残すということを念頭において進めさせた。このことで総合的な学習の時間の目標(1)(2)(3)を達成するためにはどのような計画を立てればいいのか「イメージ」として掴めたとされる。かなり難しい課題であったが、「総合的な学習の時間の指導法」「学校栄養指導論」の理解促進が図られたとともに、「主体的・対話的な深い学び」とはどういうことか各自得るものがあり、授業実践力に繋がったと考えられる。

6. まとめ

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編の第1章1の(2)改訂の基本方針に記載されている児童生徒の育成や授業を行うことができる力を備えた栄養教諭を育成するために、教科と食に関する指導の特性を踏まえ、「高飯プロジェクト」という単元名で総合的な学習の時間の単元プラン作成を行った。総合的な学習の時間の計画は学校全体で取り組むべきものであること、他教科との関連性、小中の連携や地域との連携、児童生徒や地域の実態等々実に複雑で難しいものである。しかしながらその一部分でも体験をすることでこれまでの教職課程の授業で扱ってきた内容がより理解できるのではないかと考えて取り組んだ。学生はステップごとに真摯な姿で計画作成等を行いその過程で「主体的・対話的な深い学び」「教科横断的な指導」とは具体的にどのようなものかを学んでいった。また内容も栄養士資格取得のための学習内容が大いに活かせることなどが加味されて意欲的に取り組めたと考えられる。

完成させた2案についても完成度が低く内容

も乏しいと批判を受けることもあろうし、実際詳細な単元計画や指導案等の作成に進んだら、このままでは使えず修正点が沢山出てくる可能性も十分にある。だがこの取組で得た学びは、中学校家庭科教諭や栄養教諭を目指す者にとっては、現場で諸先輩方から受ける指導の理解促進や、授業の実践に戸惑う場面に遭遇した際の助けになるのではないだろうか。さらに2年次後期科目にある栄養教育実践演習の時間の充実に繋がるであろう。

7. 今後の課題

アセスメントシートによる自己評価の結果は概ね良好であったが、あくまで自己評価なので実際にどこまでの力が付いたかどうかは、さらなる活動を仕組んでいくか、実際の現場で検証をしなければ分からない。またどの項目も評価が上がらなかった者と、1つの項目以外は上がらなかった者が全体の20%いたことから指導の工夫をしなければ学生の理解は深まらなないと痛感した。

栄養教諭が行う食に関する指導の場面は総合的な学習の時間のみならず様々な教科等や集会、行事と多岐に渡る。その他にも学校や地域等における食に関する指導のコーディネーター役であるということも忘れてはならない。そういった観点から考えると、「全体計画作成」の手順から関わられるような力を付けていかなければならないが、学内だけでは限界がある。さらにこれからの教員に求められているカリキュラムマネジメント力、ICTを活用した指導についても学んでいく必要がある。ICT活用に関しては、家庭科教諭及び栄養教諭の教育実習が終了している学生は実習をする中で学校に浸透してきていると感じた者も多くいた。加えてSDGsの観点からも考える必要があるのではないかとといった意見も学生から上がり、今後さらなる資質の向上に努めていかなければならない。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、人との交流が制限されている中で可能なこ

と不可能なことを整理しながら学校現場との交流も考えていきたいと思う。

8. 謝辞

「総合的な学習の時間の指導法」において教職課程を履修している学生にご指導くださった尾濱邦子先生に感謝いたします。

9. 引用参考文献

- 1) 文部科学省栄養教諭の配置状況
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/08040314.htm
- 2) 大分県教育委員会「平成26年度栄養教諭を活用した食育推進事業報告書」
<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2006049.pdf>
大分県教育委員会「平成27年度栄養教諭を活用した食育推進事業報告書」
<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2001774.pdf>
大分県教育委員会「平成28年度栄養教諭を活用した食育推進事業報告書」
<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2006987.pdf>
- 3) 大分県教育委員会「平成29年度スクールヘルスアップ事業（小・中学校の取組）報告書」
<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2020391.pdf>
- 4) 教育職員免許法・同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて 文部科学省初等中等教育局教職員課 P14
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2017/07/27/1388004_2_1.pdf
- 5) 文部科学省：食に関する指導の手引き 平成29年3月 東山書房
- 6) 文部科学省：食に関する指導の手引き
—第一次改訂版— 平成22年3月 東山書房
- 7) 文部科学省：食に関する指導の手引き
—第二次改訂版— 平成31年3月 東山書房
- 8) 文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）
解説 総則編 東洋館出版社
文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）
解説 総則編 東山書房
- 9) 新井英志 村田尋如「総合的な学習の時間」にお

- ける栄養教諭の食に関する指導の現状と課題—北海道における実態調査を踏まえて— 天徳大学紀要 Vol.21 No.1 2020 P.6～7
- 10) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）
解説 総合的な学習の時間編 東山書房
- 11) 大分県教育委員会：【中学校】総合的な学習の時間の全体計画例（令和2年11月26日公開）
<https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/post-124.html>
- 12) 大分県教育委員会：小学校単元プラン例（高学年）（令和元年9月19日更新）
<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2061542.pdf>